

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「はなの里」
(ユニット名)	空
所在地 (県・市町村名)	三重県名張市西田原2094番地の1
記入者名 (管理者)	山之口 掬子
記入日	平成20年 9月17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員からの公募にて、理念の再確認をし、この4月より「笑顔・尊重・安心感」を柱に、職員が一致して、地域性を考え、より家庭的な雰囲気の中に個別に対応するように意思統一を図っている。又、民生委員さんの協力の下地域の一員として地域行事に参加することや、施設行事に参加していただける様努めている。	○ 「笑顔・尊重・安心感」の理念に基づき、地域と共に生活をして頂けるよう、意識して支援をしていきたい。積極的にその人らしく安心して生活を続けていただけるよう、地域の行事に参加したり、地域の方の来所を働きかける。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は運営理念を、介護職と話している。又、運営理念を事務所や玄関ホールに掲示して、常に念頭におき業務を改善している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホームについて知って頂ける様、入所前にご家族及びご本人(認知症の軽度の方のみ)に運営理念を説明し、同意を得ている。ホームページに公開している。	○ 母体施設と共に地域公民館で介護教室を開き、講演・勉強会等を通してグループホームの理念を浸透させ、地域と共にこれからのグループホームの役割等を一緒に考えていく予定で、10月14日開催で準備進行中です。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所に民家が無く、母体施設との交流は密にしている。散歩やドライブ、買い物に出かけ、社会性を継続できるよう配慮している。民生委員さんの協力の下、地域交流を深めて行くようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体との交流や、地区の行事に参加している。又、地区の子女による民謡の発表会等の交流がある。平成19年度は民謡の発表会に参加し、名張市青少年センターで日頃の練習の成果を発表した。母体施設にて地域の幼稚園児等の慰問の時参加している。	○ 今後も発表の機会があれば、積極的に参加する予定である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	母体施設の入所者による書道教室を月一回実施している。又人材育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的に行なっている。	○	母体施設と共に地域公民館で介護教室を開き、講演・勉強会等を通してグループホームの理念を浸透させ、地域と共にこれからのグループホームの役割等を一緒に考えていく予定で、10月14日開催で準備進行中です。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い、サービスの質の向上に努め、安心感を高めていくよう取り組んでいる。	○	自己評価をする事で、職員の気づきに役立っており今後も定期的実施する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を設立し、グループホームの皆さんと一緒に家庭的な雰囲気の中で行いたいため、行事とあわせて企画する等工夫をしている。	○	運営推進会議委員の方達と密に連絡を取り合っ、回を重ねて気軽に要望を話し合っているように努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は課題解決を速やかに行なうべく、相談や報告、指示を仰ぎお互い共有している。又、会議や勉強会には出席するよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や講習に参加し、後日伝達の意味で説明、回覧をしている。成年後見人制度に関しては、入居者に利用されている方があり、入居前に印刷物を配布して説明をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、ミーティングの際に伝達している。又常時見れるよう事務所に厚生労働省・老健局の冊子を配置している。職員のストレスも溜まらないように勤務体制を出来るだけ考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書に基づき、一項目ごとに説明し、ご理解、ご納得の行くよう努め同意を得てけいやくしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・カンファレンスの際に意見等を伺い、できるだけ満足して頂ける様と取り組んでいる。介護相談員の方と話す機会も提供している。	○ 些細な事でも拾い上げ運営に反映できるよう努力する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回ホーム便りの「ごきげんさ〜ん」を発行し、異動時には職員紹介のコーナーを設けて紙面で報告し、ご家族の方には送付している。必要に応じて口頭でも伝えている。年3回「はなの里」便りを施設全体で発行している。又、遠方のご家族が多く、電話で近況報告をして交流をしている。	○ ご家族との連携は必要不可欠であり、担当者を決めて、きめ細かな報告を継続的に行う体制をとっている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・カンファレンスの際に意見等を伺い、できるだけ満足して頂ける様と取り組んでいる。契約の際、相談・苦情の窓口の案内書を説明し、お渡ししている。	○ 日頃からご家族等が、不満、苦情を言える雰囲気作りに努め、小さな不平、不満を素早くキャッチし、それを踏まえプラスにつなげていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い施設運営を目指し、月2回(個別・合同)のケア会議のみならず、いつでも話し合い、意見交換の出来る体制を設け実践してきました。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者やご家族の皆様のニーズや実態に即した勤務体制も取れるような柔軟性を持たせるよう心掛けてきました。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体、部署内で、担当年数や適正、専門性、一方幅広い職種の修得も考慮した上で異動は実施しますが、あくまでも利用者の方に対してもプラスとなるよう、心掛け、配慮いたしております。	○ 職員の資質の向上とマンネリ化を防ぐ観点から異動は避けられないが、これからも法人全体と利用者の皆様双方にとってもプラスとなる適材適所人事に心掛けます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に生涯研修の段階的受講と、施設内外研修への参加、そして自己目標への研鑽、資格挑戦等に意欲的に取り組む体制作りを努めております。	○ 全職員の知識と介護力の向上は当然であります、人間性を高める意味からも職員教育にはこれからも力を入れていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設との交流や意見交換により、サービスの質の向上等につなげねばなりません、近隣に少なく県グループホーム連絡協議会に加入し、意見の交換会、講演、研修等に極力参加し、更に母体との勉強会、会議等も交えサービスの質の向上につなげる努力を致してきました。	○ 他施設の良い所や、自施設の検証には他施設との交流も不可欠であり、母体との交流も含め、これからも積極的に取り入れて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員毎の勤務状態や、振る舞い、明るさ等により、悩みや勤労意欲に低下が見られないか留意してきました。	○ 何でも話しやすい職場作りを今後も今以上の関係構築のために取り組みつづけます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	当該施設にも極力出向き、利用者とは勿論、職員との会話、ふれあいを高め、もって明るく向上心に燃え、働きやすい職場づくりに努めてきました。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ショートステイ等で母体施設を利用されていた場合は、職員が話をする機会を持って少しでも顔なじみになれるよう努めている。	○ ご本人の意志は認知症の観点から十分に確認できているとは言えないが、ご本人と接する等の努力をし、不安の解消に努めている。入所後の利用者の表情の変化がとても良くこの努力を続けていきます。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申込みに来られた際、お答えいただける範囲の一応の聴き取り調査をし、入所判定委員会前に、ホームの見学と意思の確認をさせていただき、契約時に重要事項説明書に基づき十分な説明をしている。	○ ご家族がもう少し話しやすい雰囲気を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での支援についても検討し、ご本人とご家族の状況の把握に努め、必要性を見極め、より良いご家族間の関係を持つための支援をしている。必要があれば在宅のケアマネージャー等へ連絡している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームや職員に慣れていただけるよう努めている。他の利用者の動揺にも配慮して、ご本人やご家族のホームの見学をして納得した上で入所いただいている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活リハビリの場であり、居室の掃除は毎朝職員と一緒にこなしている。又、生活の役割を持っていただき、生甲斐を感じていただけるよう努めている。生活歴に応じた活動を共に行う中で、様々な事柄を考えて頂いている。ひとつの家庭であるという事を念頭に起き、一緒に心地良い生活が送れるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加や、季節の衣類の整理、通院、外出等の協力をお願いし、ご本人との接点を多く持っていただけるよう努めている。又、身内の方が遠方の方も多く、極力電話等で連携を取り、相談の上でご本人を支えています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人やご家族の意向に配慮して、よい関係が築いていけるよう、行事の参加等と呼びかけている。	○	行事の参加が年々少なくなってきており、今後も積極的な参加をお願いします。ごきげんさん(月1回発行)の送付により行事を案内し参加を呼びかけている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の集まりの参加やホームへの来所を支援し、地域の行事等に積極的に参加したり、散歩、買い物等で社会性を継続できるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	必要以上に職員が関わらずに、入居者同士で助け合うように配慮している。孤立しがちな方には、仲良く出来る様、職員が間に入って配慮している。入居者同士のトラブルの際には、片方を責めるのではなく、お互いを尊重して、原因把握に努め、解消するようにしている。	○	認知症の重度化に伴い、個人差が開いており一層の配慮を心掛けたい。職員が仲介し利用者間の話をする機会を増やす。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要なご家族には、近況を伺ったりして、支援の協力を申し出ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに添った暮らしが出来るよう支援している。その人の行きたい所、食べたいもの、会いたい方等を日常の会話の中で受け止め、出来る範囲で協力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、本人・家族の協力を得て、今までの生活の環境やリズムについて出来る範囲での聞き取りを実施し、介護計画を立てて速やかにホームに馴染んで頂ける様努めている。介護計画の見直し時や変化のあった時には職員で話し合い、ご家族の同意を得て対応するよう努めている。	○	生活歴・馴染みについては、さらに情報を得たい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人の表情や言動に注意して、日々の状況の把握には細心の注意をする様努めている。	○	家庭で生活されてきた日々の状況に、出来るだけ近づける様支援したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人に三人の担当を決め、複数の目で介護計画の見直し等を図れるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時(おおよそ3ヶ月、安定した方は6ヶ月)介護計画の見直しをし、ご家族に報告を兼ねたカンファレンスを行なっている。又大きな変化があった場合にはその都度見直しをしてご家族の希望の反映にも努めている。	○	事情により期間が長くなっているが、ご家族との電話等による連携を深め、ご本人の今を共有して対応しており、ご家族の事情等も考えて記録を執り、介護に生かしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務報告書や個人記録簿に日常的に記入、又申し送り等で情報を共有している。ほかに連絡ノート毎日のチェックシート等で素早く対応出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況により、個別に外出の支援・通院等対応をしている。利用者の要望で自宅へ荷物を取りに行ったり、買い物に同行している。さらに隣接している母体施設と連携を取っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	園芸福祉ボランティア・フラワーアレンジメント・お化粧品ボランティア・お菓子作りボランティア等のボランティア活動の受け入れや、防災訓練等で地域との交流を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性が生じた場合には積極的に働きかけている。2階ユニット(空)では医療系のデイサービス利用中。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人が必要と認められるケースには、地域包括支援センターと協力して利用できるように支援している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族と話し合って受診する医療機関を決めている。通院に関して基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な場合には職員が代行するよう務めており、利用契約時に同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	訪問看護師に利用者の健康管理、体調の変化を報告し、指示を頂いている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	職員がお見舞いに行き、病院との連携を持って、ご本人が安心して頂ける様に努めている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	カンファレンスの際等に重度化した場合のご家族間での支援体制の心づもりを話し合っている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		ご家族ご本人の意向を踏まえて、出来るだけのことを看護師と協議し、急変時の対応等につき医療機関との連携を図っている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		ご本人の意向を大切にし、ご家族の要望を受け入れるよう努めている。その際これまでの生活環境、支援の内容、特に注意を要する事項について、情報の提供書を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケア会議の際に、職員の意識向上をはかり、日常のかかわりの場でもご本人の尊厳を配慮して、さりげない対応をする様努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常さりげない会話を試み、ご本人の思いを引き出すよう努めている。行事の参加は押し付けでなく、自己判断を基本としている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れは集団生活の為必要だが、ご本人の体調、気分などを感じて、ご本人のペースを大切にして散歩や外出・買い物個別性のある支援を行なっている。	○ 希望を訴えられない方や状況に応じて、要望に応えられないケースもあるので、希望に出来るだけ添える様更に努力したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床・臥床時には基本的に本人の意向で決めているが、自己決定が困難な方には、職員と一緒に考えて行なっている。美容院には本人の意向を聞き、ご家族の協力を頂き実施している。不可能な場合には、母体施設での散髪ボランティアを利用したり、近くの美容院に同行している。	○ 外出時、本人が希望される時は、化粧をする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳など、できることを少しでもして頂くようにしている。職員と一緒に食事をし、話をしながら楽しい食事になるようにしている。季節の献立として、秋刀魚を焼いたり、そうめんバイキングをしたり、鍋料理を取り入れて季節感をもっていたい。母体栄養士によりメニューは決まっているが、利用者の好みや体調に合わせてアレンジしている。	○ その日のメニューで、利用者の方に下ごしらえから、味付けまでしてもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の状況に応じて、声掛けをし、お好きな飲み物を飲んで頂いている。又、喫茶に出かけたりしている。	○ 10時・15時にティータイムの時間を設け、利用者が好まれる飲み物、お菓子を提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時のサインを把握し、周囲の方に配慮して、声掛けや誘導で、出来るだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。紙パンツから失禁布パンツ移行している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	くつろいだ入浴をしていただける様に、時間を充分取っている。又、希望者の夜間入浴も行なっている。入浴時の不安や羞恥心への配慮として、一人ずつ入浴している。	○	入浴の際、昔の話、食べ物の話等をし、コミュニケーションをとる様にしています。好きな時間に入っていただく様支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、夜間眠れない方には温かい飲み物やおむすびをすすめて少し話をし安眠を図っている。	○	日中の昼寝時間は、本人に合わせて声掛けしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中に得意な事をお願いし、役割を持って生活して頂くよう努めている。マンネリにならないように、買い物やドライブ地域の行事の参加等を行なっている。	○	カラオケ・畑仕事・洗濯干し・散歩・地域の行事に参加している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブや買い物に出る際、ご家族より事業所に預かっているお金から一定額を職員が預かり、支払を本人にして頂く事で、金銭感覚を持って頂いている。	○	外出の際等、お金をご自分で持って買い物をする機会を増やしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	立地条件があり日常的に買い物に出かけられないが、散歩や母体への訪問等で外出の支援をしている。天気や本人の気分を観てドライブで郊外に出かけたり、ショッピングセンターに出かけたりしている。	○	一人一人、その日の希望に添って、近くでも良いので、外出の機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常会話の中で行きたい場所、やりたい事を教えていただき、実現可能なことは実現するよう努めている。	○	ご家族の参加が少なく、旅館の他の利用者の事にも配慮が必要な為、屋外での小旅行に行った。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは出来るだけお部屋の方で話せるように配慮している。手紙やはがきを書いて頂けるように、声掛けをしている。	○	ハガキ等をお渡しして、普段から連絡したりするのも、生甲斐につながるので実施してみたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人・知人等本人の馴染みの方達と、気軽に話が出来よう状況を見て、自室での面会や、リビングでの他の利用者と一緒にお茶を飲んでゆっくりして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設と合同で、身体拘束廃止委員会があり、講習会に参加したり、会議に参加して、自覚していない身体拘束が行なわれていないか、精神的な身体拘束はないかを話し合い、スタッフの意識の向上を図っている。	○	緊急やむを得ず身体拘束を行なう場合には、家族の理解も十分に得、同意を頂いた上で実施し、記録をする予定である。記録・書類はファイルに分けて管理する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にメロディーを付け開放時にメロディーがなるようにし、本人の気分や状況に応じて散歩に出かけてみたり、畑仕事の手伝いをして頂く等して気分転換を図っている。	○	2階の階段口で唯一施錠してきた所をメロディーが鳴るようにして鍵をかけないケアに撤している。但し職員の目が届かない状況の時には利用者の安全の為施錠する事もある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と一緒に生活をし、さりげなく利用者の様子を確認している。夜間は数時間ごとに利用者の様子を確認すると共に、すぐに対応できるよう居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務所、包丁は安全な場所に収納、台所洗剤等(スポンジも含む)は使用后すぐに目の届かない所に保管し、洗濯・掃除用の洗剤等に関しては夜間のみ扉のある場所へ収納、施錠している。又異食の危険性のある方の行動にはそれとなく職員が介助し、ご本人の品物に関するの保管は預る形で本人の了承ご家族の了承を得た上で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット・事故報告を記録し、職員全員で共有、危険性の認識を徹底し、再発防止対策について話し合っている。又家族の方にはその都度説明と報告を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力をえて、救急手当てや蘇生術の研修を行い、ホームでは緊急時対応マニュアル・連絡網を事務所に常に設置して緊急時に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体施設・消防署の協力をえて、年2回避難訓練を実施している。消火器の使い方、避難経路の確認、避難時の注意点などを解りやすく指導して頂いている。又、日常的にもちよっとした会話の中で避難の心掛けを利用者と共に話している。	○	避難訓練の際火事を想定して行われるため、口にタオルをあてて避難する事が定着しており、消防署からのお褒めの言葉も頂ける様になっている。この状態を維持できるよう繰り返し会話などに組み込んで続けたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時及びカンファレンスの際・緊急を要するときに、ご本人に起こり得るリスクについて説明し、対処法の選択を話し合い、了解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に気をつけて、少しの違いを見逃さないようにしている。変化があった場合には、記録をして職員間で伝え合い対策を検討し、早めにご家族に連絡・相談をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイル作成し、日常使用する業務日誌に添付、薬の薬効主治医等明記している。薬に関する辞書を事務所に設置している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表に記入し、排便チェックを実施している。日常的には繊維質の多い食材や乳製品を採り入れ、家事・散歩・体操等で体を動かす機会を多く持っている。	○	入浴後や散歩・体操等身体を動かした際には水分補給に努めており、継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、その方に応じた対応をしている。入れ歯の処理は出来るだけ職員と一緒に眠前・起床時に行っている。	○	ご自分の歯の利用者は、職員が磨き具合を見て、声掛けし歯磨きの指導をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを個人記録に記入大まかな栄養摂取量を把握している。食事量の異常が発生したときには看護師に相談し、検討の上、職員間で伝えあって対処している。	○	食事摂取量の少ない利用者は、補助食品を摂取してもらっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	起こり得る感染症に関しては、日頃から看護師からの講習を受けており、マニュアルの設置をし、早期発見、早期対処に努めている。職員及び利用者は、ホームに出入りする時に、うがい・手洗いを行っている。	○	ゴム手袋、新聞紙、ビニール袋などの一式を常時準備している。又、水虫の感染予防のため、足拭きタオルを一人づつ替えている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類の衛生管理の為、食器乾燥機で加熱している。又、台所水周りはアルコール消毒を行っている。食材の調達は前日必要分を母体施設の業者よりしており、新鮮で安全な食材を使っている。	○	調理後、2時間以内に食べて頂ける様、取り組んでいる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に訪れて頂けるように、玄関周りに草木を飾っている。又外部は立地条件があり、少しでもくつろげるよう、よしず、草花のプランター等を置いている。	○	安全と安心の為、ガレージと庭との境を演出したい。玄関前に長椅子を設置し休憩場(憩いの場)として利用している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごして頂けるように、照明の明るさや採光、テレビの音や歩く音、扉の開閉時の音などについて配慮している。食事を準備する音やにおい、又草花を飾る等して、五感に働きかけて心地よく過ごして頂けるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所でも、くつろいで頂けるように畳やソファを置いている。	○	昔から使用していた時計、家具等記憶に配慮した空間づくりをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたもの等を持ってきて頂くよう、入居時や必要時にご家族に話している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況に注意して、こまめな空調調節や換気に努めている。トイレの換気は、換気扇と消臭剤を使用し、悪臭の発生を防いでいる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、トイレの場所がわかりやすい様、大きく表示している。又入浴しやすいように踏み台や手すりなどで安心していただけるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員間で本人にとってより安全で、安心して過ごして頂けるよう状況にあわせた対応を話し合い、共有している。その人に合ったコミュニケーションの方法で、解りやすく明確に伝え、協力して行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑を作り、季節の野菜を植え、日常的にお世話をしている。庭にベンチを置き散歩の途中でもくつろげるよう工夫している。	○	園芸福祉のボランティアの方に協力して頂きながら、四季の花を植えたり、庭の畑で野菜を育て収穫を楽しみ、無農薬野菜を堪能している。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の日々の笑顔をいつまでも育みたい思いで、その方らしさを尊重し、家族的な雰囲気の中節度ある相互関係の構築に努めており、安心感をもって生活を送っていただけ、自信を持って、又生甲斐を感じて毎日を過ごしていただくよう取り組んでいる。